

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスがスマートフォン向けなどで弱含んでいるほか、生産用機械が海外の設備投資需要の落ち着きから弱含んでいるなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	持ち直しのテンポが緩やかになっている	一進一退の状況にある	↔
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は減少見込み	↔
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は増益見込み	→
企業の景況感	「下降」超幅が縮小	「下降」超幅が拡大	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、海外経済の動向、物価上昇、供給面での制約等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年を上回っている。百貨店販売は身の回り品等が好調となっており、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売はカウンター商品が好調となっており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は新規出店効果のほか、医薬品や飲食料品が好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売は園芸用品等に動きがみられるものの、日用品等が低調となっていることから、前年並みとなっている。家電大型専門店販売は冷蔵庫やエアコンなどが好調となっていることから、前年を上回っている。乗用車販売は半導体不足等の影響による納車の遅れが続いているものの、前年を上回っている。旅行は国内旅行が持ち直している。このように、個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 総菜は、ついで買いしやすい低価格の小分けパックの陳列を強化しており、購買点数も伸びている。(スーパー、中堅企業)
- 卒業式や入学式などオケージョン需要の高まりからフォーマルウェアやバッグなどが好調だった。(百貨店)
- カウンター商品は、値上げはしているものの外出機会の増加により引き続き好調となっている。(コンビニエンスストア、大企業)
- 飲料は安く取り揃えていることから、まとめ買いの動きもみられている。また、花粉の飛散量が多いことにより花粉症対策の薬が好調。(ドラッグストア、中堅企業)
- 県による省エネ家電購入への支援事業が開始したことで、性能の高い冷蔵庫やエアコンなどで動きがみられた。(家電量販店、大企業)
- 納車状況は改善しているものの、依然として半導体・自動車部品の調達難により納車遅れ、在庫不足が続いている。(自動車販売、中小企業)
- 感染症に落ち着きがみられ旅行マインドも上昇傾向にある。これまで動きのなかった社員旅行や海外旅行にも春先以降予約がみられるようになってきた。(旅行代理店、中堅企業)
- 全国旅行支援や行動規制緩和による人流回復で客数、売上げは増加した。韓国からのチャーター便による団体客の受入れもあった。(宿泊、中堅企業)
- 人流の増加に伴って各店舗へのファミリー層の来店が増えてきており、売上げは回復傾向にある。今後も新型コロナウイルス感染症の5類移行も予定されており、大いに回復していくものと見込んでいる。(飲食、中小企業)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

電子部品・デバイスは自動車向けが堅調となっているものの、スマートフォンやパソコン向けで海外経済の減速等を背景に弱含んでいる。輸送機械は供給制約に緩和の動きがみられ、持ち直しつつある。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける設備投資需要の落ち着きから、弱含んでいる。このように、生産活動は、一進一退の状況にある。

- 自動車向けなどのパワー半導体の需要は堅調に推移しており増産している。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- スマートフォンやパソコン向けについては、世界的な景気減速に伴う需要減少により取引先が在庫調整を行っているため減産しているほか、納期の後ろ倒しの依頼も増えてきている。(電子部品・デバイス、大企業)
- 半導体不足に一服感があり、1～3月は過去の稼働停止分の挽回を図るため休日操業を行うなど、増産となった。(輸送機械、大企業)
- 半導体メーカーにおいて、製造装置への設備投資を後ろ倒しにする動きがみられるなど、需要が落ち着いてきていることから生産調整を行っている。(生産用機械、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は低下しているものの、新規求人数は医療・福祉等において増加している。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 慢性的な人手不足となっている介護施設からの求人のほか、地方公共団体の会計年度任用職員の求人が増加している。(公的機関)
- 物価高を背景に、より賃金が高い企業へ転職する動きが活発化している。(公的機関)

- **設備投資** 「4年度は減少見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期
 - 製造業では、金属等で減少見込みとなっているものの、生産用機械、情報通信機械等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、宿泊・飲食等で増加見込みとなっているものの、電気・ガス・水道、情報通信等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。
- 倉庫建設や維持更新投資などにより増加する見込みとなっている。(生産用機械、大企業)
 - 前年度までの大型投資の反動により減少する見込みとなっている。(電気・ガス・水道、大企業)
- **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期
 - 製造業では、食料品等で減益見込みとなっているものの、生産用機械、木材・木製品等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
 - 非製造業では、小売等で減益見込みとなっているものの、宿泊・飲食で黒字転化見込み、運輸・郵便で赤字幅縮小見込みとなっていることなどから、全体では増益見込みとなっている。
 - **企業の景況感** 「『下降』超幅が拡大」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期
 - 現状(5年1～3月期)は「下降」超幅が拡大している。先行きは5年4～6月期に「下降」超幅が縮小し、5年7～9月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。
 - **住宅建設** 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、貸家が前年を上回っているものの、持家、分譲が前年を下回っていることから、前年を下回っている。
 - **公共事業** 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額は、県、その他で前年度を下回っており、全体では前年度を下回っている。
 - **消費者物価** 「前年を上回っている」
 - **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
 - **企業倒産** 「件数は前年を下回っており、負債総額は前年を上回っている」

3. 各県の総括判断

	前回(5年1月判断)	今回(5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は弱含んでいる。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	持ち直しつつある	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	↘	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。
山形県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は持ち直している。
福島県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は緩やかに持ち直している。